

保健室登校等の児童生徒に関する学生の意識

有村 信子

College Students, Consciousness about Children Going to the School Nursing Room

Nobuko Arimura

現在の複雑・多様化している児童生徒の心身の健康問題に関して、養護教諭にはますます積極的な健康相談活動が求められている。このような中、養護教諭養成課程の学生は、養護実習で保健室登校の児童生徒にかかわることが予想される。そこで、本研究では保健室登校等の児童生徒に対して学生がどのようなイメージを持っているのか、また本県における実態と比較し分析を行った。その結果、保健室登校等の児童生徒に対して学生が持つイメージは「性格・行動」「他者との関係性」「学校環境」「家庭環境」に分類され、すべての学生は「性格・行動」および「他者との関係性」の両方のネガティブ側をイメージしていることが明らかになった。また保健室登校等を経験した学生は、圧倒的なネガティブイメージを持っている。さらに保健室登校等の児童生徒数では実態と異なるイメージを学生は有している。学生による保健室登校等の児童生徒へ効果的と思われる対応は、本県の調査結果と同じ傾向が見られた。

Key words : [保健室登校], [性格・行動], [他者との関係性], [効果的な対応]

(Received October 14, 2003)

目 的

近年、不登校やいじめをはじめとする心の健康や喫煙、性の逸脱行動など学校における児童生徒の心身の健康問題はますます複雑・多様化してきたと言われている。日本学校保健会の保健室利用状況調査(1996)によると、保健室に来室する児童生徒の中には、身体的な症状を訴える一方で、交友関係や家庭の事情など内面的な問題を併せ持つ者も多いことが指摘されている。このような状況の中、児童生徒に直接かかわっている養護教諭に対して、平成9年9月の保健体育審議会の答申では、新たな役割として児童生徒の健康相談活動に積極的に取り組んで行くことが求められている。

さて、養護教諭を目指して入学してきた養護教諭養成課程の学生は、養護教諭免許状を取得するため養護実習にいくこととなる。当然、実習の中で心身の健康問題で保健室に来室する児童生徒、とりわけ学校生活のほとんどを保健室で過ごす保健室登校の児童生徒とかがかわることが予想される。

そこで、本研究では保健室登校自体や保健室登校等を行っている児童生徒に対して、学生がどのようなイメージを持っているのか、また、本県における実態(鹿児島県総合教育センター、

* 鹿児島純心女子短期大学生活学科生活学専攻養護コース (〒890-8525 鹿児島市唐湊4丁目22番地1号)

2002)と比較しながら分析することによって、今後の養護教諭養成課程のカリキュラム改善にどのように反映させるかを検討するものである。

研究方法

1 調査対象

短期大学の養護教諭養成課程の学生2年生39人,1年生53人の合計92人である。

2 調査期日

1年生は2003年9月11日,2年生は2003年9月12日の後期履修登録終了後,セミナー室に全員を集めて,調査用紙を配布し,無記名・自己記入式で実施した。なお,1年生は健康相談活動及び養護実習の科目をまだ受講していないため,「保健室登校」について説明した後,約20分時間を設けて調査した。2年生は15分程度であった。

なお,保健室登校については,「常時保健室にいるか,特定の授業には出席できても,学校にいる間は主として保健室にいる状態」を言い,また「等」を付けてあるのは,登校した児童生徒が使用する部屋が,保健室だけに限らず教育相談室や図書館等もあるからと説明した。

3 調査項目

(1) フェイス項目

学生が持つ保健室登校等へのイメージの有様が,いかなる要因によって影響を受けるのかを分析するために,本研究ではフェイス項目としていくつかの項目を設定した。

項目としては,学年,養護実習経験の有無,保健室登校等の児童生徒と同じクラスになった経験の有無およびその時期,本人の保健室登校等の経験の有無について設け,選択式で回答を求めた。

(2) 保健室登校等の児童生徒に関する学生の意識

保健室登校等の児童生徒に対してどのようなイメージをもっているか,また,本県の保健室登校等の実態をどう捉えているか調査した。児童生徒のイメージについては,ブレインストーミングを用いて自由記入とした。保健室登校等の実態についての調査項目は,鹿児島県総合教育センター(2002)が実施した鹿児島県内の全ての公立小学校・中学校・高等学校における保健室登校等の実態調査を参考に,3項目リストアップした。

結果および考察

1 フェイス項目の分析

(1) 養護実習経験の有無

学生のうち1年生53人は,全員養護実習の経験がない。2年生39人のうち,実習経験のある学生が36人,実習経験のない学生が3人であり,全体では経験のある学生89人(96.7%),経験のない学生3人(3.3%)である。

(2) 保健室登校等の児童生徒と同じクラスの経験の有無

小学校から高等学校までに,保健室登校等をしている児童生徒と同じクラスになった経験があるかどうかについて,「ある」と回答した者は41人(44.6%),「ない」と回答した者は51人

(55.4%)であり、Fig. 1に示したとおりである。

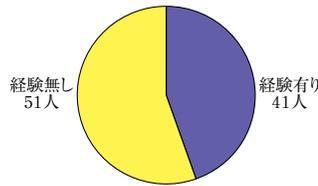


Fig. 1 保健室登校等の児童生徒と同じクラスの経験

(3) 保健室登校等の経験の有無

学生自身が保健室登校等の経験があるかどうかについて、92人のうち4人(4.3%)の学生が経験があり、1年生は1人、2年生は3人であった。

2 保健室登校等の児童生徒に対するイメージ

保健室登校等をしている児童生徒のイメージについて、思いつくものから順に10列記してもらった。そのイメージに対して、「暗い」「おとなしい」「寂しい」など本人の性格・行動特徴を表したものを「性格・行動」,「友達がいない」「人と接するのが苦手」「いじめられている」など他者との人間関係を表したものを「他者との関係性」,「家庭に事情がある」「家族とうまくいかない」「家族関係が複雑」など家庭の状況を表したものを「家庭環境」,「授業についていけない」「学校が楽しくない」「先生とうまくいかない」など学校生活を表したものを「学校環境」という4つのカテゴリーによる分析の枠組みを設定した。

このカテゴリーについては、筆者の他2人(児童生徒の心身の問題に精通した者および保健室登校に関わった現職の養護教諭)が独立に判定し、3人のうち2人以上が「性格・行動」「他者との関係性」「家庭環境」「学校環境」と判定したものである。分類結果についてはTable 1に示したとおりである。なお、Table 1の左側から「養護実習の経験」,「保健室登校等の児童生徒と同じクラスの経験」,「本人の保健室登校等の経験」と3つの経験の有無を記入してある。また、イメージについては「性格・行動：A」「他者との関係性：B」「家庭環境：C」「学校環境：D」と略記してある。

保健室登校等の児童生徒に対しては、まず学生92人すべてが「暗い」「おとなしい」など「性格・行動：A」のネガティブ側、「友達がいない」「人と接するのが苦手」など「他者との関係性：B」のネガティブ側の両方をイメージしている。その中で学生88人は、保健室登校等の児童生徒に会った経験がないのに、ネガティブな見方をしていることは注目すべきである。この保健室登校イコールネガティブというステレオタイプはどこから生まれて来たのか、今後さらに検討が必要である。

また、保健室登校等を経験したことがある学生4人について、4人は合計40のイメージを列記している。その中で39が「性格・行動」「他者との関係性」「家庭環境」「学校環境」のいずれかのネガティブなイメージであり、1つのみ「性格・行動」のポジティブなイメージをあげている。すなわち、圧倒的なネガティブイメージである。これは本人自身が自己否定的な思いから抜け出せず、現在でも保健室登校したというネガティブな自己を引きずって短大生活を送っていることになる。

Table 1 保健室登校等の児童生徒に対するイメージ一覧

1年生 (N=53) 性格・行動：A 他者との関係性：B 家庭環境：C 学校環境：D

実習クラス	本人	イメージ1	イメージ2	イメージ3	イメージ4	イメージ5	イメージ6	イメージ7	イメージ8	イメージ9	イメージ10	
無	有	暗い	A 悲しそう	A 誰かに話を聞いてほしい	B 笑顔がみられない	A 友達を欲しが	B 担任に気を遣ってほしい	D 秘密を持っている	A 親にかつてほしい	C 辛い	A 淋しい	A
無	有	おとなしい	A 暗い	A 体が弱い	A 貧血	A 意見が言えない	B 心配症	A 家庭に事情あり	C マイナス思考	A 悩みをたくさん持つ	A 人見知りがある	B
無	有	悩みがある	A クラスに入れない	B おとなしい	A 病弱	A 人と接するのが苦手	A 授業についていけない	D 思っていることを言えない	B 先生が嫌い	D 勉強したくない	D いじめられている	B
無	有	おとなしい	A 暗い	A 幼い	A 弱い	A 発達が遅い	A いじめられている	B 情緒不安定	A 元気がない	A よく泣く	A 淋しそう	A
無	有	おとなしい	A 寂しい	A 何かありそう	A 話しくい	B						
無	有	悩みがある	A 暗い	A 元気がない	A いつも独り	B 無口	A 学校が楽しくない	D つまらない	A 友達ができにくい	B 不良	A 何となく登校	A
無	有	校則を守らない	D 先生に注意されやすい	D 根は素直	A やさしい	A 人とかかわらない	B 人が嫌がることをする	B 怖い	A ヤンキー	A 悪いことをしている	A 先生や大人を嫌う	D
無	有	家庭が複雑	C いじめに遭う	B 自己表現できない	A 担任に不満	D マイナス思考	A 親に不満	C 家に居場所なし	C 学校に居場所なし	D 友達がいらない	B ねくら	A
無	有	暗い	A 落ち込んでいる	A 話が嫌い	A 人と接するのが苦手	B 心を隠している	A 独りが好き	A 急に暴れる	A 自分中心	A どこかで助けを求めている	B 変わった興味がある	A
無	有	自分の居場所探している	A 悩んでいる	A 信頼できる友達がいらない	B 暗い	A 謎な所がある	A あまりしゃべらない	A 本当はかまってい	B 聴病	A 敏感	A どこつまらなそう	A
無	有	暗い	A 変わっている	A ねくら	A 家庭に事情あり	C 存在感が薄い	A 積極性なし	A 人の後ろにくっつく	B 真面目	A 人前が苦手	B 自信がない	A
無	有	病弱	A 人と接することが苦手	B 自分で物事を決められない	A 優柔不断	A 常に下を向いている	A 本ばかり読んでいる	A 運動が苦手	A 静み場所を好む	A 悩みを抱えている	A 誰かに気付けてほしい	B
無	有	悩みをかかえている	A 困っている	A 心を閉ざしている	A 言いたいことを言えない	B 助けを求めている	B 元気がない	A 喜怒哀楽が少ない	A その子なりの価値観がある	A 周りの人とうちとけにくい	B 口数が少なめ	A
無	有	とにかく悩んでいる	A 問題をかかえている	A 本当は学校に行きたくない	A 内向的な性格	A 暗い	A おびえている	A 心の傷をもっている	A 勇気がない	A 消極的	A 自分と戦ってがんばっている	A
無	有	おとなしい	A 友達が少ない	B 悩みを一人で抱えている	A 暗い	A 家庭環境が複雑	C					
無	有	いじめられている	B 教室にいきづら	B 繊細な感じ	A 自由	A 人と接するのが苦手	B 友達を作るのが苦手	B 心がやさしい	A 人に相談するのが苦手	B		
無	有	寂しげ	A 友達がいらない	B 相談できる人がいない	B 暗い	A ウツをつく	A 離婚	C 女の子	A 細い	A 悩みがいくつも	A 精神的に弱い	A
無	有	集団行動が苦手	B いじめにあっている	B 暗い	A 勉強についていけない	D 何か得意分野がある	A 人と接することが苦手	B かわいそう	A 人が弱い	A おとなしい	A 話せば明るい	A
無	有	もの静か	A 色白で病弱	A 人見知りをする	B 人見知りなものが	A いじめられた過去がある	A 人とうまくつきあえない	A 自分の殻にとじこもる	A 自分自身で無関心	A 自閉症き	A 下を向いて歩く	A
無	有	おとなしい	A 内気	A 友達がいらない	B いじめにあっている	B クラスになじめない	B 思いこみが激しい	A 家庭内で問題あり	C 友達関係のもつれ	B ねくら	A 人との交わりが下手	B
無	有	悩みがある	A 消極的	A 自信がない	A やさしい	A つらい	A 苦しい	A かわいそう	A 悩みを相談できない	B 友達が少ない	B 悩まれたら断れない	B
無	有	悩みがある	A 弱い	A いじめ	B 暗い	A 自己中心的	A 自分の世界がある	A わがまま	A 自分を特別だと思っている	A プライドがある	A 保健室にいて当たり前	A
無	有	悩みがある	A 体調がすぐれない	A 体が弱い	B 人見知りする	B 先生とうまくいかない	D 家庭に事情あり	C 本当は良い子				
無	有	消極的	A 人のことを気にしすぎる	A 自分の気持ちを話すのが苦手	B 集団の中に入るのが苦手	B 小さなことを気にしすぎる	A 一人であるのが好き	B 部屋の中に入るのが好き	A 心を閉じた人	A 話を聞いたら断れない	B 自分を持ちかた	A
無	有	自分の意見を言うのが苦手	A 恥ずかしがりや	A 消極的	A 心配症	A ありがた	B 病弱	A コミュニケーションが下手	B 自分に自信がない	A さびしがりや	A おとなしい	A
無	有	暗い	A おとしや	A 静か	A 発言が少ない	A 近寄りた	A 悲しそう	A 接しにくい	B いじめの対象	B 自己主張できない	A 友達がい	B
無	有	暗い	A 友達がい	B 深い心の傷を負っている	A 人間不信	B 生徒か先生に いじめをうけた	B よく泣く	A 人見知り	B 心を閉じた人	B 病気き	A 漫画好き	A
無	有	おとなしい	A 人間関係が苦手	B いじめられたことがある	B 学校が嫌い	D 先生とうまくい	D 自分のことが自分から	A 悩みがある	A 実はず	A 持病を持って	A 体が弱い	A
無	有	悩んでいる	A 苦しんでいる	A 辛い	A 人間関係の問題がある	B 教室に入りたくても入れない	B 自分に負ける	A 葛藤している	A 暗い	A 離しい	A 元気がない	A
無	有	教室には入れない	B 悩みがある	A どうしたんだろうと不思議な子	A 心の暗さ	A うち解けるのが苦手	B 人が怖い	B 辛い	A 心細い	A 不安	A 学校が怖い	A
無	有	おとなしい	A 一人っ子	A 本や絵など好きなことがある	A プライドが高い	A 自分から話さない	B 絵がうまい	A まじめ	A 優秀	A 女の子	A 几帳面	A
無	有	苦しんでいる	A 内向的	A いじめにあっている	B 悲しい	A 話が出来ない	B きっかけがない	B 家庭が複雑	C 気が弱い	A 人見知り	B とけ込めない	B
無	有	意志薄弱	A コミュニケーション不足	B 親が甘い	C 過保護	C 友人を作るのが下手	B 被害者意識が強い	B 内にこもるタイプ	A 打たれ弱い	A 気持ちや伝えにくい	B 人の顔色ばかりうかがう	B
無	有	可哀想	A 甘えている	A おとなし	A 普通に見える	A 病弱	A 怖がっている	A 心が繊細	A 悩みやすい	A		
無	有	おとなしい	A 自分の意見をあまり言えない	B 人と接するのが苦手	B 友達がい	B いじめの対象になっている	B 体が弱い	A 壁を作ってしまう	B 話しかけづらい雰囲気がある	A 話してみてもや	A	
無	有	人とコミュニケーションをとるのが苦手	B 消極的	A おとなしい	A 相談できる人が周りにいない	B 心が繊細	A 学校に行くのを嫌がっている	D 本当は誰かと話したい	B 悩みやすい	A 人に不信感を抱いている	B 友達が少ない	B
無	有	マイナス思考	A 内気	A あまりしゃべらない	B 暗い	A 人に相談することが苦手	B 表情を表に出さない	A あまり笑わ	A			

保健室登校等の児童生徒に関する学生の意識

実習	クラス	本人	イメージ1	イメージ2	イメージ3	イメージ4	イメージ5	イメージ6	イメージ7	イメージ8	イメージ9	イメージ10	
無	無	無	いじめ-涙、悲しい	B	問題をかかえる-暗い、辛い	A	家ででの問題-不登校	C	虐待-暴力、あざ	B	心の問題-苦しさ	A	
無	無	無	暗い	A	いじめ-泣く	B	おとなしい	A	人見知り	B	反抗期	B	やる気がない
無	無	無	おとなしい	A	自分中心	A	家庭に事情がある	B	人と接するのが苦手	B	前にいじめられたことがある	B	甘えている
無	無	無	暗い	A	周りとうち解けられない	B	友達が少ない	B	自分独自の世界がある	A	口数が少ない	B	あまり笑わない
無	無	無	暗い	A	消極的	A	自分の世界	A	友達がいらない	B	独りぼっち	B	人間嫌い
無	無	無	暗い	A	コミュニケーションが下手	B	家庭に事情がある	C	クラスでいじめられている	B	少しだけ甘えが入っている	A	友達が少ない
無	無	無	いじめ	B	暗い	A	静か	A	だるい	A	おとなしそう	A	学校が嫌い
無	無	無	つらそう	A	おとなしい	A	友人とうまくいっていない	B	学校が嫌い	D	勉強嫌い	D	暗い
無	無	無	おとなしい	A	いじめられている	B	学校が嫌い	D	友達が少ない	B	家庭に問題がある	C	先生とあわない
無	無	無	心に不安を抱えている	A	家庭に問題がある	C	いじめを受けている	B	先生と相性が悪い	D	自分の主張がでない	A	精神的に繊細
無	無	無	人の輪に入れない	B	人見知り	B	自分の意見がない	A	自分が被害者だと思ってる	B	暗い	A	本当は普通の子
無	無	無	おとなしい	A	静か	A	接しようとする努力がない	B	暗い	A	わがままな一面	A	周りに頼りすぎ
無	無	無	弱い	A	可哀想	A	いじめられた子	B	心の病気を持っている	A	いじめっ子	B	とてもナイーブ
無	無	無	内気	A	静か	A	気が弱い	A	我慢強さに欠けている	A	相談相手がない	B	親しい友人を作ろうとしない
無	無	無	クラスに行きたくない	B	おとなしめ	A	いじめにあってる	B	勉強が嫌い	D	クラスに嫌いな人がある	B	学校嫌い
無	無	無	クラスで嫌なことがある	B	友達関係がうまくいかない	B	クラスに仲の良い友達がない	B	授業担当の先生が嫌い	D	クラスの雰囲気が悪い	B	クラスになじめない

2年生 (N=39)

実習	クラス	本人	イメージ1	イメージ2	イメージ3	イメージ4	イメージ5	イメージ6	イメージ7	イメージ8	イメージ9	イメージ10	
有	有	有	傷つきやすい性格	A	優しい人	A	内気	A	交友関係が狭い	B	いじめ	B	家族の問題がある
有	有	有	いじめに遭っていない	B	教室に友達がいる	B	家族が複雑	C	暗い	A	いつも下を向いている	A	一人であることが多い
有	有	有	悩んでいる	A	苦しい	A	独りぼっち	A	実は人恋しい	B	対人恐怖	B	暗い
有	有	有	悩みがある	A	おとなしい	A	人となじめない	B	病弱さ	A	友達関係が悩んでいる	B	親と隔たりがある
有	有	有	悩みをもっている	A	辛い	A	暗そう	A	よく考えすぎ	A	優しい	A	愛情を求めている
有	有	有	自己表現がうまくいかない	A	友達とうまくいかない	B	生活習慣が少しずれている	A	自己主張が強すぎる	A	友達作りがうまくできない	B	家庭に問題がある
有	有	有	暗い	A	悩んでいる	A	口数が少ない	B	いじめにあってる	B	なじめない	B	
有	有	有	明るい	A	自己中心的	A	悪口を言う	B					
有	有	有	おとなしい	A	友達がいらない	B	家族関係が複雑	C	いじめられている	B	悩みがある	A	マイナス思考
有	有	有	いじめにあってる	B	家庭内に問題	C	協調性がない	B	暗い	A	友達がいらない	B	心に傷をもっている
有	有	有	心に問題がある	A	友達が少ない	B	身体的訴えが多い	A	先生とコミュニケーションがとれない	D	マイナス思考	A	寂しがり屋
有	有	有	物静か	A	無口	A	表情が暗い	A	暗い	A	よく休む	A	自分を語らない
有	有	有	いじめ	B	コミュニケーションの取り方が下手	B	家庭での出来事あり	C	クラスの雰囲気になじめない	C	担任とのコミュニケーション不足	D	笑顔がない
有	有	有	集団が苦手	B	人見知りする	B	甘えがある	A	無口である	A			
有	有	有	嫌なことから逃げる	A	あまり話さない	A	暗くなりがち	A	人と目をあわさない	B	どこか上の空	A	学校は嫌な場所
有	有	有	心の傷	A	寂しさ	A	甘えん坊	A	弱い	A	傷つきやすい	A	逃げないようにする
有	有	有	友人関係が苦手	B	話をするのが苦手	B	病弱	A	学校に興味がない	D	勉強が苦手	D	家庭に問題あり
有	有	有	内気	A	人目を気にする	B	引きこもり	A	狭く深い	A			
有	有	有	頑張ってる学校に受けてる	A	何か辛いことがある	A	集団が苦手	B					
有	有	有	家庭に問題	C	クラスになじめない	B	内気な性格	A	いじめ	B	おとなしい	A	

実習	クラス	本人	イメージ1	イメージ2	イメージ3	イメージ4	イメージ5	イメージ6	イメージ7	イメージ8	イメージ9	イメージ10											
無	無	無	おとなしい	A	暗い	A	会話が苦手	B	優しい	A	気分が悪くなりやすい	A	泣きやすい	A	うるさいことが嫌い	A	人前が苦手	B	騒ぐことが苦手	A	異性が苦手	B	
有	無	無	物静か	A	寂しそう	A	暗い	A	一人でいることが多い	B	あまり発言しない	A	何をしてるんだらう	A	家で生活が気になる	C	反論しない	A	活動的でない	A	弱そう	A	
有	無	無	おとなしい	A	体が弱い	A	気が小さい	A	怠け者	A	優しい	A	泣き虫	A	やせている	A	友達が少ない	B	親がしっかりしていない	C	規則正しい生活をしていない	A	
有	無	無	教室に行きにくい	B	悩みがある	A	みんなに分かってほしい	B	学校が嫌い	D	友達がいらない	B	勉強についていけない	D									
有	無	無	クラスになじめない	B	いじめられている	B	勉強についていけない	D	先生とうまくいかない	D	家庭でうまくいかない	C	暗い	A	物静か	A	スポーツが苦手	A	クラスに嫌いな人がいる	B	友達とうまくいかない	B	
有	無	無	おとなしい	A	静か	A	病気がち	A	優しい	A	クラスになじめない	B	悩みを抱えている	A	色が白い	A	やせている	A	本が好き	A	内向的	A	
有	無	無	気が弱い	A	わがまま	A	心が病んでいる	A	思い悩んでいる	A	学校が嫌い	D	友達に困っている	B	人間関係作りが下手	B	不安あり	A	心が不安定	A	家庭に問題あり	C	
有	無	無	おとなしい	A	家庭環境が複雑	C	暗い	A	不良っぽい	A	成績不振	D	友達が少ない	B	社会的接触が少ない	B	運動不足	A	いじめ	B			
有	無	無	いじめ	B	弱い	A	悩み	A	優しい	A	ナイーブ	A	かわりもの	A	明るい	A	暗い	A	おとなしい	A	繊細	A	
有	無	無	暗い	B	友達がいない	A	友達がいない	B	今が楽しくなさそう	A	協調性がない	B	閉じこもってる	B	周りをみない	B	いつも一人	A	家庭でも楽しくない	C			
有	無	有	淋しそう	A	弱い	A	暗い	A	自分勝手	A	協調性がない	B	独りぼっち	B	頼っている	B	甘えている	A	悩んでいる	A	自分の考えを持っている	A	
無	無	無	悩みがある	A	人付き合いが苦手	B	繊細	A	小さなことを気にする	A													
有	無	無	体格が太り気味	A	優しい人	A	汗をよくかく	A	おもしろくしてくれる	B													
有	無	無	いじめられている	B	クラスになじめない	B	弱い立場	A	友達がいらない	B	消極的	A	まともがない	A	わがまま	A							
有	無	無	人と目をあわせられない	B	特定の人と合わない	B	内気	A	原因のわからない腹痛	A	登下校の時間がばらばら	A	保健室に人がくると揺れる	A	特定の人とのみ話す	B	友人の悩みあり	B					
有	無	無	静か	A	おとなしい	A	暗い	A	無口である	A	あまり笑わない	A	人と交流がない	B	一人で何かしてる	A	養護教諭の手伝いをしていない	D	クラスになじめない	B			
有	無	無	悩みがある	A	いじめられている	B	クラスにとけ込めない	B	仲のよい友達がない	B	淋しい	A	何か話したいことがある	B	家庭に問題	C	クラスに会いたくない人がいる	B	担任とあわない	D	授業が嫌い	D	
有	無	無	意見を言えない	B	物静か	A	心配性	A	恥ずかしがり屋	A	意志が強い	A	純粋	A	集団行動が苦手	B							
有	無	無	いじめ	B	内気	A	家庭環境が悪い	C	交友関係	B	無口	A	悩みを相談しない	B	コミュニケーションが苦手	B	学力	D	苦しんでいる	A	涙	A	

学生92人が列記したイメージは合計804で、その内訳は「性格・行動」471件 (58.6%)、「他者との関係性」244件 (30.3%)、「学校環境」48件 (6.0%)、「家庭環境」41件 (5.1%)であった。(Fig.2参照) 保健室登校等をしている児童生徒のイメージは、「性格・行動」(58.6%)と「他者との関係性」(30.3%)を合わせて、ほとんどの学生が本人自身の持っている問題であるとする見方をしていることになる。

実際、養護コースに入学してきた学生は、養護教諭になるための養護実習をする場合、または養護教諭として勤務する場合、心身に健康問題を持つ児童生徒の支援を直接行っていく立場にある。このような立場にある学生が、保健室登校等をしている児童生徒に対して最初からネガティブなイメージを持つことは、児童生徒の姿を「あるがままに」受けとめ、問題解決への支援に当たる立場として支障をきたすことが予想される。すなわち、保健室登校等をしている児童生徒側から見た場合、自分にとって養護教諭は信頼関係を結べない存在と見なされることになる。

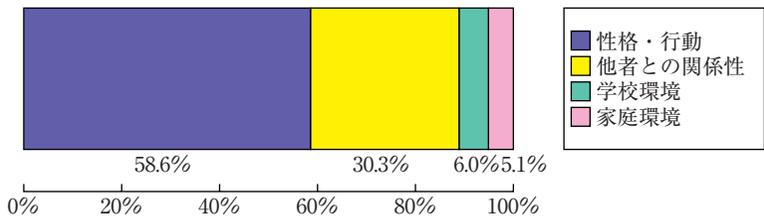


Fig.2 保健室登校等の児童生徒に対するイメージ

3 保健室登校等の実態と学生の意識の比較

(1) 保健室登校等の児童生徒数

Table1・Fig.2で明らかのように、学生たちは保健室登校等の児童生徒に対して画一的なステレオタイプのイメージを持っている。そのイメージは、実態と大きく食い違うことも予想される。本研究では、鹿児島県総合教育センター調査（2002）および日本学校保健会調査（1996）と比較することで、養護学生の持っているイメージを確認したい。

現在、鹿児島県内の全ての公立小・中・高等学校において、保健室登校等の児童生徒の人数が多いと思われる校種に1位から3位の順位を付けてもらった。その結果は、Table2に示したとおりである。小・中・高等学校の順位については、6通りの組み合わせしかなく、1/6の確率で当たってもいいはずである。しかし、5人（5.6%）のみ正解であり、Fig.3から分かるように本県および全国の実態とは異なるイメージを明らかに有している。

Table 2 保健室登校等の児童生徒数が多い校種順

学生の判断	1年	2年	合計
小学校>中学校>高校	6	1	7
小学校>高校>中学校	1	0	1
中学校>小学校>高校	26	24	50
中学校>高校>小学校	5	0	5
高校>小学校>中学校	14	9	23
高校>中学校>小学校	1	3	4

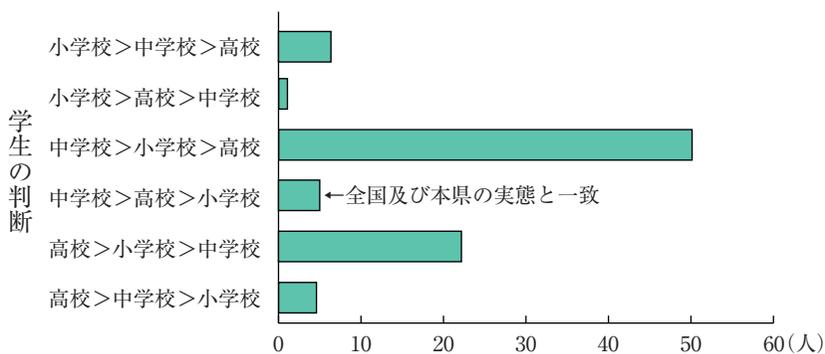


Fig. 3 保健室登校等の児童生徒数が多い校種順

(2) 保健室登校等の児童生徒が在籍している学校

同じく、鹿児島県内の全ての公立小・中・高等学校において、保健室登校等の児童生徒が在籍している学校の割合（各校種の全学校数に対する保健室登校等がある学校の比率）が高いと思われる校種に1位から3位の順位を付けてもらった。その結果は、Table3に示したとおりである。保健室登校等の児童生徒数と同じく、5人（5.6%）のみ正解であり、Fig.4からも分かるように本県および全国における保健室登校等の実態とは異なるイメージを持っている。

なお、本県は小学校596校、中学校273校、高校82校の学校があり（2002.4）、特に小・中学

Table 3 保健室登校等の児童生徒が在籍している学校割合の校種順

学生の判断	1年	2年	合計
小学校>中学校>高校	9	4	13
小学校>高校>中学校	1	0	1
中学校>小学校>高校	23	17	40
中学校>高校>小学校	5	0	5
高校>小学校>中学校	14	12	26
高校>中学校>小学校	1	4	5

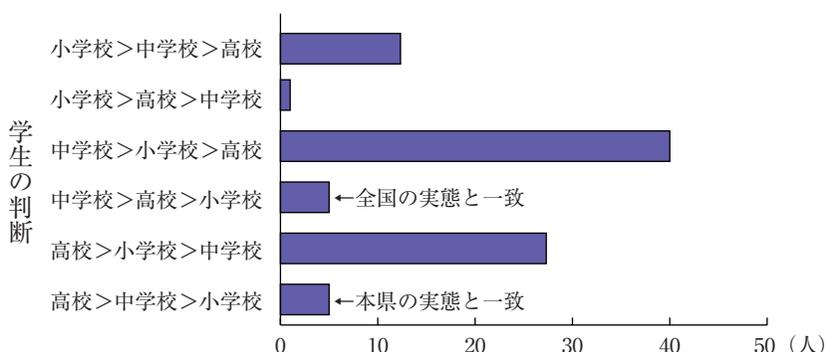


Fig. 4 保健室登校等の児童生徒が在籍している学校割合の校種順

校の離島・へき地の学校数が多く、この学校数そのものを把握していなかったことも正解が少なかった一因と思われる。しかし、これだけではないので、今後さらに検討が必要である。

4 保健室登校等の児童生徒への効果的な対応と学生の意識の比較

保健室登校等の児童生徒への対応で、効果的であると思われるものを1位から5位の順番に記入してもらった。5位までの対応をすべてまとめると、Table 4およびFig.5のような結果が得られた。学生によって効果的な対応と思われるものをみると、「⑭保護者と十分に連携しながら対応する」、「⑧保健室等へ友達が行けるように配慮する」、「⑪具体的な対応方針を全職員が共通理解して対応する」、「⑨担任や養護教諭が教育相談を行う」の順に上位を占めている。

本県の調査で実際、効果的であったと思われる対応は「⑭保護者と十分に連携しながら対応する」、「④登校は、当該児童生徒の登校できる時間帯を認める」、「⑦保健室等では、出来るだけ本人の計画で過ごさせ、職員は見守るようにする」、「⑧保健室等へ友達が行けるように配慮する」の順である。

学生の意識と実際の効果的な対応で一番異なるものは「④登校は、当該児童生徒の登校できる時間帯を認めた」であり、学生は9位に、実際の学校現場では2位にあげている。このことは、学生にとって保健室登校等の児童生徒を学校における「場所」のみのイメージでとらえており、登校時間のずれという「時間」のイメージは学生に希薄だったと思われる。

Table 4 保健室登校等の児童生徒への効果的な対応 (人数)

効果的な対応	1位	2位	3位	4位	5位	合計	本県
⑭保護者と十分に連携しながら対応する	15	25	13	12	12	77	1位
⑧保健室等へ友だちが行けるように配慮する	9	17	15	12	4	57	4
⑪具体的な対応方針を全職員が共通理解して対応する	14	6	15	5	12	52	5
⑨担任や養護教諭が教育相談を行う	9	7	10	14	5	45	6
⑦保健室等では、できるだけ本人の計画で過ごさせ、職員は見守るようにする	7	8	12	5	12	44	3
⑩心の教室相談員やスクールカウンセラーが教育相談を行う	9	6	7	8	10	40	8
②朝、できるかぎり本人が自分で学校に来るように促す	13	5	8	6	5	37	11
⑥保健室等では、課題を与えて学習させる	2	3	5	11	16	37	7
④登校は、当該児童生徒の登校できる時間帯を認める	4	3	2	7	3	19	2
①朝、教師や児童生徒が迎えに行く	7	3	1	3	2	16	12
⑤できるだけ教室に入るように促す	1	4	2	2	3	12	13
⑬総合教育センター、児童総合相談センター、医療機関等専門機関と連携しながら対応する	0	3	1	1	4	9	9
⑫主としてかかわる教師等を決めて対応する	1	1	0	4	2	8	10
③学校の始業時刻を守るように指導する	1	1	1	2	2	7	14

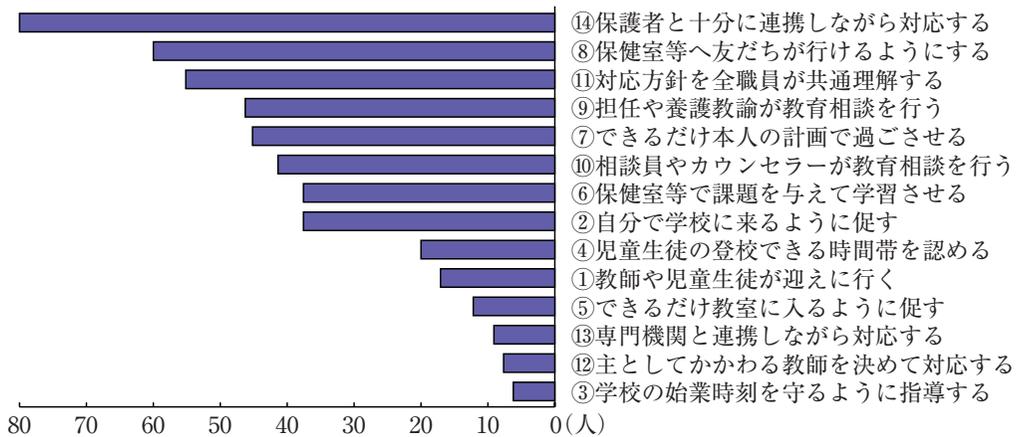


Fig. 5 保健室登校等の児童生徒への効果的な対応

また、保健室登校等の児童生徒への対応で、学生によって効果的な対応と思われる上位3位までをまとめると、Fig.6のような結果が得られた。「⑭保護者と十分に連携しながら対応する」、「⑧保健室等へ友だちが行けるように配慮する」、「⑪具体的な対応方針を全職員が共通理解して対応する」、「⑦保健室等では、出来るだけ本人の計画で過ごさせ、職員は見守るようにする」が上位を占め、本県の調査結果と同じ傾向が見られた。養護教諭を目指す学生が推測する効果的な対応と学校現場の養護教諭や担任が効果的であったと考える対応について、差がないことは驚くべきことである。すなわち、保健室登校やその児童生徒のイメージをきちんと持たない学生と日々かかわっている学校での対応が同じであることは、養護教諭自身も保健室登校の児童生徒への対応を迷いながら実践していることが推測される。事実、筆者（有村,1999）の先行研究では、養護教諭が保健室登校の児童生徒への対応で困ったことは、「保健室でどの

ように過ごさせればいいのか分からなかった」, 「他の子どもに保健室登校をどう説明していいのか分からなかった」, 「保健室登校の子どものがつかめず, どう関わればいいのか分からなかった」が上位を占めている。また, 数見(2003)は, 養護教諭を対象にした保健室登校生への支援等に関する研究で, 保健室での過ごさせ方は発達段階における検討が必要であること, 保健室登校やその生徒に対する担任や他教師の無理解があることを養護教諭が感じていることを指摘している。

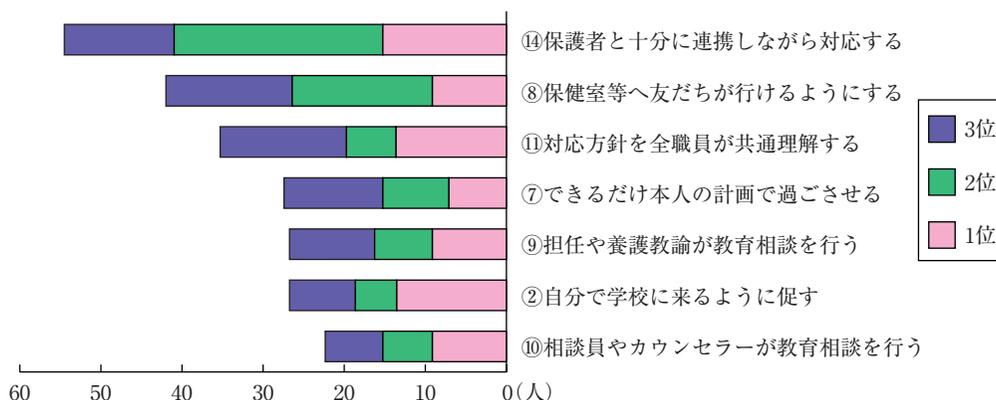


Fig.6 保健室登校等の児童生徒への効果的な対応 (上位3位)

まとめ

本研究で得られた結果を要約すると, 以下のようになる。

- 1) 保健室登校等の児童生徒に対するイメージでは, 学生92人すべてが「暗い」「おとなしい」など本人の「性格・行動」のネガティブ側, 「友達がない」「人と接するのが苦手」など「他者との関係性」のネガティブ側の両方をイメージしている。
- 2) 保健室登校等を経験したことがある学生4人について, 4人は合計40のイメージを列記している中で39が「性格・行動」, 「他者との関係性」, 「家庭環境」, 「学校環境」のうちいずれかのネガティブなイメージであり, 1つのみ「性格・行動」のポジティブなイメージをあげている。
- 3) 学生92人が列記したイメージは, 「性格・行動」471件(58.6%), 「他者との関係性」244件(30.3%), 「学校環境」48件(6.0%), 「家庭環境」41件(5.1%)である。
- 4) 保健室登校等の児童生徒数が多い校種順では, 5人(5.6%)のみ正解であり, 本県および全国の保健室登校とは異なるイメージを有している。
- 5) 保健室登校等の児童生徒が在籍している学校割合の高い校種順でも, 5人(5.6%)のみ正解であり, 本県および全国の保健室登校等の実態とは異なるイメージを持っている。
- 6) 学生による保健室登校等の児童生徒へ効果的な対応と思われる上位5位までは, 「⑭保護者と十分に連携しながら対応する」, 「⑧保健室等へ友だちが行けるように配慮する」, 「⑪具体的な対応方針を全職員が共通理解して対応する」, 「⑨担任や養護教諭が教育相談を行う」の順である。学生の意識と本県の調査結果で一番異なるものは, 「④登校は, 当該児童生徒の登校で

きる時間帯を認めた」である。

7) 学生による保健室登校等の児童生徒へ効果的な対応と思われる上位3位までは、本県の調査結果と同じ傾向であった。

本研究は、学生が保健室登校等をしている児童生徒に対してどのようなイメージを持っているか、また、本県の保健室登校等の実態をどう捉えているかを分析したものである。結果に示されたように、学生が保健室登校等の児童生徒に対して持っているイメージは非常にステレオタイプなものであり、その一貫した傾向は極めてネガティブな価値意識を持っており、また実態とは異なるイメージを持っていることが明らかになった。

これらのステレオタイプのイメージを基に学生は、保健室登校等の児童生徒を援助・支援することになる。したがって、これらの学生が持っているイメージをどう修正できるかが鍵となる。そのため今後は保健室登校の児童生徒とふれあう機会を設けたり、ボランティアに参加したりするなどの実体験の場を増やし、さらに、「健康相談活動」などの講義でロールプレイやグループエンカウンターを組み入れたり、日常生活でピアヘルピング（仲間同士の助け、助けられ関係）を体験したりすることが必要と考える。

参考文献

- 有村信子：養護教諭の執務上の悩みに関する調査研究（I）—養護教諭養成課程のカリキュラム改善の視点—，鹿児島純心女子短期大学，29，63-71，1999
- 鹿児島県総合教育センター研究紀要：不登校児童生徒への指導・援助の在り方に関する研究—保健室等登校児童生徒への対応を通して—，通巻第106号，2003
- 数見隆生：保健室登校生への支援とその教育的意義に関する調査研究，日本教育保健研究会年報，第10号，37-45，2003
- 数見隆生，伊藤寛生：保健室登校に関する研究（第1報）—保健室登校の実態に関する傾向—，第48回日本学校保健学会，268-269，2001
- 伊藤寛生，数見隆生：保健室登校に関する研究（第2報）—保健室登校の教育的意義に関する検討—，第48回日本学校保健学会，270-271，2001
- 保健体育審議会答申：生涯にわたる心身の健康の保持増進のための今後の健康に関する教育及びスポーツ振興のあり方について（答申），保健体育審議会，28-29，1997
- 日本学校保健会養護教諭研修事業推進委員会：保健室入室者等への対応に関する調査集計結果，養護教諭が行う健康相談活動の進め方—保健室登校を中心に—，（財）日本学校保健会，45-74，平成13年
- 日本学校保健会養護教諭研修事業推進委員会：保健室利用状況に関する調査報告書，（財）日本学校保健会，13-14，平成9年
- 植野理恵，芝木美沙子，笹嶋由美：北海道の高等学校における保健室登校に関する調査，第48回日本学校保健学会，128-129，2001